

第31回 令和3年度職業能力開発論文コンクールの総評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

1. はじめに

令和3年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって執筆された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、優秀な論文を選定しその成果をたたえ、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、職業能力開発の推進と向上に資すること」を目的として、厚生労働省、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構、中央職業能力開発協会の共催により行われました。

応募の対象は、現在職業能力開発に携わっている方及び過去に職業能力開発に携わった方で、令和3年度職業能力開発論文コンクール実施要領に記載された7つの応募テーマいずれかについて論じられた、公の場で未発表の論文となります。

職業能力開発論文コンクール審査委員会は、「創意工夫性、内容性(説得性、論理性等)、訓練への有効性」などの審査観点に基づいて、応募論文から「コンクール」の趣旨として優秀な論文作品を選定しました。

2. 応募の状況

今回のコンクールの応募総数は49本で、前回の令和元年度と比較して3件の減少となりました。その内訳は、都道府県立職業能力開発施設9本、民間企業等2本、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設38本となりました。前回の令和元年度と比較して、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設からの応募が2本減少し、民間企業等からの応募が1本の減少となりました。

テーマ別では、「新たな技能・技術領域の職業能力開発に必要な専門知識・技能・技術及び指導方法に関する調査・研究」が12本で、前回の令和元年度と比較すると5本の増加と目立っております。

3. 審査の講評

職業能力開発の充実に向けた関係者の積極的な姿勢と日々の着実な御努力がうかがえ、望ましいことと感銘を受けました。

それらの具体的内容をみると、職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取組みがありました。すなわち、テクニカルスキルだけでなく、地

域連携、チームワークの醸成、人材育成、キャリア形成支援、障害者支援として企業から要望の強いコミュニケーション能力を取得、訓練手法、ヒューマンスキル・コンセプチュアルスキル向上の取組み、モチベーション向上、広報への寄与、実際の現場での技能を修得できるカリキュラムなど多岐にわたる職業能力開発に向けた優れた挑戦が、自作された職業訓練教材を活用した訓練効果の検証、数年から十数年の歳月をかけた検証などによって情熱をもって語られていました。求人受付、指導員、就職支援アドバイザーによる一体支援にこれまで直接関わっていなかった事務職の新しい絡み方、職員に対する人材育成のあり方、地域企業と指導員の関わり方といった、訓練を提供する側の体制について語られた論文も今年度は印象に強く残っています。

中でも厚生労働大臣賞（特選）を受賞した論文「電気設備技術科における施設内デュアル訓練の導入とその効果」は、電気工事の訓練において模擬家屋を用いた上で、内装、外装、床張等まで含めた独創的で一貫性のある「模擬家屋の製作カリキュラム」と、これを共著者である事務職の方が地域の関連業界団体へ積極的な連携を図って監修を受け評価されており、その取り組みの内容や企業にアピールする考え方は他の施設でも参考となる優れた論文です。

訓練の受講者である求職者の視線で、訓練の内容および就職支援が進められるよう、訓練基準に準じるための種々の工夫も行われています。単に、受講生の就職率やコース定員の充足率の向上だけでなく、訓練修了生に就職先で継続して働いてほしいという指導員の意味が伝わります。

取り組みの内容が丁寧に説明されて専門分野外の読者にもわかりやすいほか、実践報告の域に留まりがちな『職業能力開発の実践』というテーマにおいて、客観的事実に基づいて成果を結論付けている点も論文として評価できます。

そのため、多くの審査員が一致して、本論文コンクールの目的に沿った優れた内容となっていると評価しました。

本コンクールは、論文として少なめの文字数指定であり、これに収めてわかりやすく内容も充実させるには努力を要する中、その他のいくつかの応募作品も、職業能力開発に関連する報告として面白く興味をもって読むことができました。しかし、その一部には論文本体に必要な内容を収めることができず、引用文献や参考資料に膨大な情報量を頼り、これらを読覧しなくては論文の内容を理解することが難しくなってしまう、多くの審査員からとても惜しいとのコメントがあった論文が、一部に見受けられました。

ご関係の皆様には、以上の点に留意され、今回の受賞論文を参考に、さらなる研鑽を積み、職業能力開発のための努力を継続していただけたらありがたく存じます。

今回、熱心に御応募いただきました皆様方にお礼を申し上げますとともに、次回以降の職業能力開発論文コンクールにおきましても、さらに多くの方々から優れた論文を応募していただくことを期待し、総評とさせていただきます。